

---

# タラウド語のアスペクト体系と結果 相・継続相を表す接頭辞 *UA-* が付加した動詞<sup>1)</sup>

内海 敦子\*

キーワード：オーストロネシア語族、タラウド語、継続アスペクト、結果アスペクト

## 1. 概説

インドネシア国北スラウェシ州で話されているタラウド語には結果アスペクトと継続アスペクトの両方を表すことができる、接頭辞 *UA-* が付加した形態がある。同言語には他に継続アスペクトも存在する。本発表では *UA-* 形を継続アスペクトと比較することによって、*UA-* 形の用法の分析を行う。

## 2. タラウド語の概要

### 2.1. タラウド語の話されている地域と本論文で使用するデータ

タラウド語はインドネシア国スラウェシ島北部州のタラウド諸島県 (Kabupaten Kepulauan Talaud) の全域で話されると考えてよい。タラウド諸島県は、その名の通りタラウド諸島から成り、その北端はフィリピン南部のミンダナオ島と接している。タラウド諸島の大きな島は、県庁所在地のメロンワネ市 (Melongwane) が在するカラケラン島 (Karakelang)、カバルアン島 (Kabaruan)、サリバブ島 (Salibabu) の三つである。フィリピン国境には小さな六つの有人の島といくつかの無人島からなるナウサ諸島 (Nausa) がある。そのほかに多数の無人島がある。

タラウド語はオーストロネシア、西マラヨ・ポリネシア言語グループの中のフィリピン・グループに属する。周辺の5つの言語 (うち4言語がインドネシア北部州、残りの1言語がフィリピン南部で話されている) からなるサギル諸語 (Sangiric micro-group, cf. Sneddon 1984) の一つである。タラウド語は大きく六つの方言に分かれるとされる<sup>2)</sup>。本発表のデータはそのうちで一番標準的とみなされているサリバブ (Salibabu) 方言<sup>3)</sup> に基づいている。

話者はすべての方言を合わせて3万人という推定 (Noorduyn, 1991) が20年前になされているが、発表者の行った社会言語学的調査の結果 (内海 2011) によると、若年層のタラウド語使用は激減しており、特に1970年代以降に生まれたものは流暢に話せないことが多い。なお、タラウド諸島の人口は最近の10年間で4万人ほどから7万人ほどに増えている。この増加は自然増とは考えられないので、移住による増加だと思われる。移住してくる人々

---

\* 日本文化学科 准教授 言語学

は、北部スラウェシ州の他の地域からくることが多い。タラウド諸島の近くのサギル諸島から移住する人々もいるし、北部スラウェシ州の州都であるマナド市から移住することもある。中部スラウェシ、南部スラウェシから来る人々もいるし、遠くジャワ島から移住してくる人々も多い。

以下のデータの大部分は Christofer Ipu 氏（1939 年生まれ）による作例と、談話テキスト（語り手は Christofer Ipu 氏、Musa P. Tinuwo 氏（1941 年生まれ）、他 2 名）による。

## 2.2. タラウド語の音声

タラウド語には /i, e, a, o, u/ の 5 母音がある。子音は方言によって数が異なる。サリバブ方言の場合は /m, n, ŋ, p, b, t, d, k, g, ʔ, β, s, h, z, r, ɾ, l, w/ の音韻が認められる。このうち /b/ と /k/ は重子音でしか現れない。音韻を確定するにはさらなる考察が必要である。なお /r/ は trill, /ɾ/ は flap, /l/ は側面音である。/z/ には自由異音があるが、最も頻度が高いのは retroflex alveolar approximant であり、注意深い発話のときは retroflex alveolar fricative となる。調音時に上下の歯は合わさっていない。

## 2.3. タラウド語のテンスとアスペクトの概観

### 2.3.1. 非過去形、過去形および継続アスペクト

タラウド語の動詞を形成する base には特に多くの接辞が付加される。動詞には接中辞 *-um-/ni-um-*、接頭辞 *ma-/na-*、接頭辞 *maN-/naN<sup>(4)</sup>* の三つの動詞形成接辞のいずれかを取り、最大三つの態（Actor Voice, Conveyance Voice, Goal Voice）をとることができる。どの態においても非過去形と過去形の二つのテンスの他に、継続アスペクトの形態がある。以下、これを「継続アスペクト形」と呼び、動詞のアスペクトの一つ、「継続アスペクト」と区別する。継続アスペクト形は部分的重複の形態を持ち（base の最初の子音が繰り返される）、これは未来、現在、過去のいずれにおける事象にも用いることができる。この点において、継続アスペクト形は非過去形、過去形といったテンスとは異なる「アスペクト」として扱うべきと考えられる。しかし、実際の用法をみるとこの三者が相互補完的に用いられ、非過去形が「未来の事態」、継続アスペクト形が「現在の状態」や「進行中の事態」、過去形が「過去の事態」を表すことが多い。非過去形を「未来形」と呼ばない理由は、一般的な事象や現在における習慣を非過去形が表す場合があるからである。ただし、習慣的行為は継続アスペクト形で表現される方が多いので、テンスとアスペクトの体系についてはさらなる考察が必要である。継続アスペクト形は、一部の動詞（Stative verb（状態動詞））には存在しない。

非過去形、過去形、継続アスペクト形は表 1 に、まとめた。表中の C1 は base の最初の子音、N1 は base の最初の子音と同じ位置で鼻音化した音（たとえば /p, β/ の場合は鼻音化すると /m/ となる）を表す。タラウド語の動詞がとりうる 3 つの態が示されているが、すべての動詞がすべての態をとるわけではない<sup>5)</sup>。また、過去形に現れる接頭辞 *na-* あるいは *ni-* は、base が子音で始まる場合はしばしば接中辞 *-in-* と自由交替する。この接中辞は base の最初の子音のあとに挿入される（*s-um-a2e* の過去形は *na-s-um-a2e* あるいは *s-in-um-a2e*）。

表 1：タラウド語のテンス・アスペクト体系

Actor Voice			
	非過去形	過去形	継続アスペクト形
-um- 動詞	-um- + Base	na- + -um- + Base	C1 + /u/ + GEN + Base
例 lagge 'to laugh'	<i>l-um-agge</i>	<i>na-r-um-agge</i>	<i>l-u-l-lagge</i>
ma- 動詞	ma- + Base	na- + Base	ma- + C1 + Base
例 : suanna 'to plant'	<i>ma-suanna</i>	<i>na-suanna</i>	<i>ma-s-suanna</i>
maN- 動詞	maN- + Base	naN- + Base	maN- + N + Base
例 : here 'to tear'	<i>ma-ŋere</i>	<i>na-ŋere</i>	<i>maŋ-ŋere</i>
Goal Voice			
	非過去形	過去形	継続アスペクト形
-um- 動詞、ma- 動詞	Base + -ANNA	na-/ni- + Base + ANNA	C1 + /a/ + GEN + Base + -ANNA
maN- 動詞			
例 : lagge 'to laugh'	<i>lagge-anna</i>	<i>ni-lagge-anna</i>	<i>l-a-l-lagge-anna</i>
Coneyance Voice			
	非過去形	過去形	継続アスペクト形
-um- 動詞、ma- 動詞	i- + Base	n-i- + Base	i- + C1 + /a/ + GEN + Base
maN- 動詞			
例 : lagge 'to laugh'	<i>i-lagge</i>	<i>n-i-lagge</i>	<i>i-l-a-l-lagge</i>

## 2.3.2 アスペクトを表す小辞

そのほか、重要なアスペクトを表す要素には、完了アスペクトを表す *te* がある。また、*sarun* は非過去形とのみ共起しその直前におかれ、未来を表す要素である（例 1）。*suete* は過去形のみと共起しその直前におかれ、完了あるいは過去を示す（例 2）。*tantaranna* は継続アスペクト形あるいは後述する UA- 形のみと共起し、現在進行中であることを示す。この要素は動詞の直前におかれることもあるし（例 3）、文頭に出てきてもかまわない（例 4）。

(1) *alu udde sarun ma-zanu*

that tree FUT MA-wither

'That tree will wither.'

(2) *i-maŋitou-n-tallu suete na-ma-silo n-apa-pande wuzu awawisa m-maŋitou*

I-3pl-LK-three COMP NA-PA-see NU-REL-clever and holiness NU-3pl

'The three of them have shown their cleverness and holiness.'

(3) *i-maŋitou tantaranna ma-n-naza?u allu udde, i-ani s-in-um-abbi.*

I-3pl now MAN-RED-lay tree that I-Any NA-UM-walk.by

'When they are laying down that tree, Any walked by.'

(4) *tantaranna i-magitou ma-n-naʒaʔu allu udde, i-ani s-in-um-abbi.*

now I-3pl MAN-RED-lay tree that I-Any NA-UM-walk.by  
 'When they are laying down that tree, Any walked by.'

### 2.3.3. UA-形の概観

タラウド語の動詞は上に述べた継続アスペクト形のほかに、baseに接頭辞 UA- が付加した継続や状態を表す形態を持つ。この UA- が付加した動詞（以下 UA- 形と表記）は、未来、現在、過去のいずれにおける事態についても用いることができる点でも、動作の継続や状態の継続を表すことができるという点でも継続アスペクト形と似通っている。しかし、両者には異なる点もある。それは UA- 形が動作の「結果」および「未完了」を表すことがあるという点である。つまり、UA- 形は「結果アスペクト」と「継続アスペクト」の双方を表す形態だと言える。

以下、適宜 UA- 形と継続アスペクト形の形態を比較しつつ、UA- 形の用法を明らかにする。

接頭辞 UA- は動詞の base の直前に付加される。例えば、*tanaʔo* 'to live' という base の UA- 形は *ua-tanaʔo* となる。ただし、接中辞 -um- をとって動詞を形成する base が母音で始まるときは、/ua/ ではなく /uʔaʔ/ となる。たとえば、*omaŋŋa* 'to crawl' に UA- が付加すると *uʔaʔ-omaŋŋa* となる。また、タラウド語には語頭で自由交替、語中で形態音韻論的な交替を示す音素のペアが三つある。/β/ と /w/、/d/ と /r/、/g/ と /h/ である。UA- が付加すると、それらのペアのうち、「弱い」ほう（近接音ないし摩擦音ないし trill）に交替する。

## 3. 動詞の語彙的アスペクト

### 3.1. 語彙的アスペクトの分類

タラウド語の動詞の語彙的アスペクトを概観してみたい。タラウド語の動詞のアスペクトがどのような体系をなしているかを探るために、Vendler 1957 の動詞の四分類、achievement verb, accomplishment verb, activity verb, stative verb を適用できるかを考えていきたい。

Vendler (ibid) は英語の動詞を分類しているのであるが、動詞はまず継続アスペクト（英語の場合は be + -ing の形態）をとることができて「（動作の）継続」を表すことができるものが activity verb と accomplishment verb である。Activity verb は atelic であり、動詞の終止点を内包しないが、accomplishment verb は atelic であり動作の終止点を内包する。継続アスペクトをとって「継続」を表さない動詞は achievement verb と stative verb である。前者は telic であって終止点を内包するが、後者は atelic であって終止点を内包しない。

以下ではこれらの概念がどのようにタラウド語に応用できるかを考える。

### 3.2. 継続アスペクト形の表す意味による分類

タラウド語の動詞は非過去形と過去形の形態は必ず持っている。これに対し、継続アスペ

クト形（表1参照）に関しては、持っている動詞と持っていない動詞があるようである。継続アスペクト形の有無を判断することは時には難しい。一つには、動詞によっては非過去形と継続アスペクトの形態が似ているからである。接頭辞 *ma-/na-* あるいは接頭辞 *maN-/naN-* をとって Actor Voice を形成する動詞に関しては、声門閉鎖音や鼻音が重子音化したときに、本当に重子音化しているかどうかは聞こえにくいからである。例えば *ma-ʔellega* ‘to look at’ が継続アスペクト形の *ma-ʔ-ʔellega* ‘be looking at’ になったとしても、声門閉鎖の時間が長いかどうかはわかりにくい。また、*ma-nabbiʔa* ‘to sew’ が *man-n-nabbiʔa* ‘be sewing’ となっても、重子音の鼻音は一つの鼻音の2倍の長さで発音されるわけではない。筆者の感覚では1.5倍ほどであるので、聞き取りにくい。また、話者によっては非過去形や過去形においても、語基の最初の子音が長めに発音され、重子音と紛らわしい場合がある。

二つ目の理由としては、多分上記のような理由により、話者によっては継続アスペクト形があることを明確に認識していない場合も多いからである。特に1970年代生まれ以降の話者には、継続アスペクト形がよく理解できていない場合も多い。

三つ目の理由としては、動詞によっては継続アスペクト形が存在しないものがあるからである。

ただし、筆者が複数の調査協力者に対し、合計10回の調査で得たデータの結果からは、継続アスペクト形は一部の動詞を除いて確かに存在すると言えるし、先行研究にもそのように記載されている（Malee (1995)、Sneddon (1984)、Bawole (1981) など）。また、接中辞 *-um-* をとって Actor Voice を形成する動詞に関しては、非過去形と継続アスペクト形がかなり異なる形態をとるので、両者が混同されることはない。

以下では、主に非過去形の意味と、継続アスペクト形の有無、およびそれが表す意味による動詞の語彙的アスペクトの分類を試みる。

### 3.3. Stative verb

状態を表す動詞語基のうち、継続アスペクト形を持たないものがあるが、それを Stative verb に分類する。

継続アスペクト形は、3.2. で述べたように、音声的な条件によって認識しにくいこともあるが、複数の話者に聞いてみれば、明確に存在すると結論できる場合がある。他方、複数の話者にきいても継続アスペクト形と非過去形の違いが認められない場合がある。後者の場合、動詞語基の意味は「変化の少ない状態」を表すことが多く、継続アスペクト形は存在しないのだと考えられる。これらの動詞の非過去形は「現在の状態」を表す。例としては、*ma-tanaʔa* ‘to live in’、*ma-tautta* ‘to fear’、*ma-tiʔilla* ‘to sleep’ が挙げられる。上記に述べたように、このような動詞語基は stative verb（状態動詞）に分類する。以下、継続アスペクト形を持つ動詞の語彙アスペクトをその意味特徴によって残りのアスペクトに分類する。

### 3.4. Activity verb

動作を表す動詞語基のうち、動詞の継続アスペクト形が、「動作の継続」を表すものは Activity verb に分類する。例えば *um-alayya* ‘to swim’ の継続アスペクト形 *uʔ-alayya* ‘be swimming’、*ma-nabbiʔa* ‘to sew’ の継続アスペクト形 *ma-n-nabbiʔa* ‘be sewing’ などである。

これらの動詞の非過去形は「まだ行われていない動作」を表す。これらの動詞の意味に動作の終結点は内包されておらず、atelicである。このとき、動詞語基の語彙アスペクトは Activity verb に分類する。

### 3.5. Accomplishment verb

ある一定の時間で終了する動作を表す動作語基のうち、継続アスペクト形をとったときに、「動作・状態の継続」を表すものがある。これらを accomplishment verb とする。例えば *l-um-endappa* 'to get glitter' の継続アスペクト形 *l-u-l-lendappa* 'be glittering'、*ma-ŋere* 'to tear' の継続アスペクト形 *ma-ŋ-ŋere* 'be tearing' である。*l-um-endappa* は「光る」時点が終結点、*ma-ŋere* は「破れる」時点が終結点で、ともに telic である。これらの動詞の非過去形は「まだ行われていない動作」を表す。

### 3.6. Achievement verb (instantiative verb)

瞬間的に終了する動作を表す動詞語基は、継続アスペクト形をとったときに、繰り返して行われる動作を表す。これらを achievement verb に分類する。例としては *r-um-anta* 'to arrive' の継続アスペクト形 *r-u-d-danta* '(plural actor) repeatedly arrive' や、*ma-ŋoʔa* 'to punch' の継続アスペクト形 *ma-ŋ-ŋoʔa* 'to punch repeatedly' が挙げられる。これらの動詞の非過去形は「まだ行われていない動作・出来事」を表す。これらの動詞の意味に終結点が内包されており、telic であるといえる。これらは achievement verb に分類することにする。

### 3.7. 語彙的アスペクトのまとめ

ここで、以上の議論をまとめる。

まず、継続アスペクト形を持たないものは stative verb とする。継続アスペクト形がある動詞のうち、継続アスペクト形が「繰り返して行う動作」を示す場合は achievement verb、「動作の継続」を示し、atelic な場合は activity verb、telic な場合は accomplishment verb とする。次の節では、UA-形を用いた例文を挙げ、それぞれどの語彙的アスペクトを持つかを考える。

## 4. 語彙的アスペクトと UA-形

この節では、前節で述べた語彙的アスペクトごとに、UA-形をとったときの動詞がどのような意味を表すかを考察する。

大まかに述べると、Activity verb の UA-形は様々なアスペクトを表す。しかし、その他の Stative verb、Achievement verb、Accomplishment verb に関しては、ほぼ一定のアスペクトを表す。これらの動詞の UA-形を先に述べ、最後に Activity verb の UA-形の意味を述べることにする。

以下の例においては、参考のため、UA-形と同じ語基が、非過去形、過去形、継続アスペクト形など、UA-形以外の形態をとったときの動詞の例文も示し、参照できるようにしてある。



## 4. 1. Stative verb の UA- 形：未完了アスペクトと継続アスペクト

Stative verb は、継続アスペクト形を持たない。また、UA- 形を持つものも少ない。少数の Stative verb が UA- 形をとると、未完了アスペクトを示す場合と、状態の継続を表す場合がある。

未完了アスペクトとは、「未完了の状態：動詞で表される状態に至る一步手前の状態」を表すアスペクトである。感情や感覚、あるいはそれらの結果行われる動作を示す動詞の場合は「動詞で表される状態の一步手前にある」ことを表す。その結果、動詞の表す意味が少々異なってくることもある。例えば、(5) a では、*ma-aʔilla* ‘to see’ という Stative verb の UA- 形、*ua-alla* が、‘awake’ という意味を表す。非過去形を用いた (5) b と対照していただきたい。また、(6) a のように、感情にかかわる動詞の場合、「動詞で表される状態にはまだ至っていないが、至る可能性がある」という意味を表す。これらも未完了アスペクトの範疇に入ると考えられる。

- (5) a. *anaʔa udde ua-alla taʔambe na-tiʔilla*  
 child that UA-see yet NA-sleep  
 ‘That child is awake and has not fallen asleep yet.’ (UA- form)

- b. *anaʔa udde ma-ʔalla apalla su laʔuanna*  
 child that MA-see boat LOC port  
 ‘That child sees a boat at the port.’ (non-past form)

- (6) a. *i-maʔitou ua-taʔt-u asu udde*  
 I-3pl UA-fear-NU dog that  
 ‘They feel little fear toward that dog.’ (UA-form)

- b. *i-maʔitou ma-taʔt-u asu udde*  
 I-3pl MA-fear dog that  
 ‘They fear that dog.’ (non-past form)

Stative verb が UA- 形をとったときに表すもう一つのアスペクトは、継続アスペクトで、「状態の継続」を表す。Stative verb には継続アスペクトがないので、UA- 形がその補完として継続アスペクトを表す。(7) a の UA- 形 (*ua-tanaʔa* ‘be living’) は (7) b の非過去形 (*ma-tanaʔa* ‘to live’) とほとんど同じように使えるが微妙な意味の違いもある。UA- 形は「一時的な状態」あるいは「以前とは異なる現在の状態」を表すが、非過去形にはそのような付加的な意味はなく、単に「現在の状態」を表す。

- (7) a. *i-mari ua-tanaʔa su liruŋŋa*  
 I-Mary UA-live LOC Lirung  
 ‘Mary lives in Lirung.’ (UA-form)

b. *i-mari ma-tanaʔa su lirun*

I-Mary MA-live LOC Lirung

'Mary lives in Lirung.' (non-past form)

まとめると、Stative verb の UA- 形は、未完了アスペクトを表す場合と、継続アスペクトを表す場合がある。

4.2. Achievement verb の UA- 形：未完了アスペクト

Achievement verb は一瞬で終結する動作を表し、その継続アスペクト形は繰り返し行われる動作を表す。このような動詞語基は UA- 形をとらない場合も多いが、UA- 形を取る場合は、動作が行われる直前の状態を表す。以下の (8) a、(9) b の UA- 形が Achievement verb の UA- 形の例である。(8) a の *ua-oʔa* (*oʔa* 'to punch' に UA- が付加した動詞) は、「殴る」直前の状態、(9) b の *ua-pesanna* (*pesanna* 'to break' に UA- が付加した動詞) は「壊れる」ことが明らかな段階にあることを示す。(10) a の *ua-puʔo* (*puʔo* 'to wake up' の UA- 形) は、「起きる」手前の半覚醒状態を表す。

(8) a. *lima=ne ua-oʔa=te*

hand=NL3sg UA-punch=COMP

'His hand is ready for punching.' (UA-form)

b. *i-tou ma-ŋ-ŋoʔa si-hani*

I-3sg MAN-RED-punch SI-Hanny

'S/he is (repeatedly) punching Hanny.' (progressive aspect)

(9) a. *arabbi i-aʔu na-ʔellega lamaʔa udde taʔambe na-pesanna,*

yesterday I-1sg MA-see dish that not.yet NA-break

'Yesterday I saw that dish has not broken yet, (past form)

b. *arawe orassa indi lamaʔa udde ua-pesanna=ke.*

but hour this dish that UA-break=COMP

but now that dish is about to break.' (UA-form)

(10) a. *aʔellehanna i-tou ua-puʔo*

it.seems I.3sg UA-awake

'It seems that s/he is half awake.' (UA-form)

b. *i-aʔu ma-puʔo orassa sambau*

I-1sg MA-awake hour one

'I will get up at one o'clock.' (non-past form)



以上のように、Achievement verb の UA- 形は未完了アスペクトを表す。

#### 4.3. Accomplishment verb の UA- 形：未完了アスペクトと結果アスペクト

Accomplishment verb は終結点を内包し、動作の経過に一定の時間が必要な動詞であり、継続アスペクト形は「動作の継続」を表す。これらの動詞語基の UA- 形は終結点の直前の時点における状態を表すことがある。これは未完了アスペクトと言える。(11) a の *ua-lendappa* (*lendappa* 'to get glitter の UA- 形) は、「輝く」一歩手前の状態を表す。(12) a の *ua-here* (*here* 'to tear' の UA- 形) は「破れそうである」という、「破れる」の一歩手前の状態を表す。これらの動詞の継続アスペクト形は (11) b、(12) b に示したように、「状態の継続」「動作の継続」を表す。

(11) a. *harele udde ua-lendappa*

sword that UA-shine

'That sword will shine soon (because it is being polished).' (UA-form)

b. *βuaβanna udde l-u-l-lendappa*

gold that RED-/u/-RED-shine

'That gold is shining.' (progressive form)

(12) a. *laubba udde ua-here=te*

clothes that UA-tear=COMP

'That clothes is on the verge of being torn.' (UA-form)

b. *laubba udde tantaranna ma-ŋ-ŋere=te*

clothes that presently MAN-RED-tear=COMP

'That clothes is now being torn.' (progressive form)

同時に、Accomplishment verb の UA- 形の中には結果アスペクトを表すものもある。

(13) a の *ua-ta?appa* (*ta?appa* 'to catch') は、「捕まえた後、(犬が) 口にくわえている状態」を表すのに対し、その継続アスペクト *ma-n-na?appa* は「捕まえるために追いかけている状態」を表す。(14) a の *ua-sa?e* (*sa?e* 'to board, to ride' の UA- 形) は「乗っている状態」を表す。その継続アスペクト形は (14) b に示したように、動作が進行中であることを示す。

(13) a. *asu udde ua-ta?appa manu?a*

dog that UA-catch chicken

'That dog has caught a chicken (and is holding it in its mouth)' (UA-form)

- b. *asu udde tantaranna ma-n-naʔappa manuʔa*  
 dog that presently MAN-RED-catch chicken  
 ‘That dog is now catching (i.e. chasing) a chicken.’ (non-past form)

- (14) a. *i-maʔitou ua-saʔe su oto*  
 I-3pl UA-board LOC car  
 ‘They are on board the car.’ (UA-form)

- b. *i-maʔitou s-u-s-saʔe su oto*  
 I-3pl RED-/u/-RED-board (PROG) LOC car  
 ‘They are boarding the car.’ (progressive form)

以下の(15)では、UA-形の動詞がとる主語が、Conveyance Voice(移動物、道具を主語にとったときの動詞のヴォイス)をとるときと同様の主語になることが示されている。(15) aの *ua-suanna* (*suanna* ‘to plant’のUA-形)は「植わっている」状態を表す。(15) bに示された Conveyance Voiceの文と同様、主語が「木々」となっている。(15) cに参考として挙げた Actor Voiceの文では木々を植える「彼ら」が主語となる。つまり、UA-形の動詞が CONVEYED THEME(移動物、道具など、空間を移動する無生物を表す意味役割)を主語とすることがあるのである。この現象は Activity verbのUA-形に関しても見られるものである。

- (15) a. *manambo aʔaluanna ua-suanna su letaʔa udde*  
 many tree UA-plant LOC ground that  
 ‘Many trees are planted on that ground.’ (UA-form)

- b. *manambo aʔaluanna ni-suanna su l etaʔa udde*  
 many tree NI-plant (CV) LOC ground that  
 ‘Many trees were planted on that ground.’ (past tense, Conveyance Voice)

- c. *i-maʔitou ma-s-suanna aʔaluanna*  
 I-3pl MA-PROG-plant tree  
 ‘They are planting trees.’ (progressive form)

このように、Accomplishment verbのUA-形は未完了アスペクトあるいは結果アスペクトを表す。どちらのアスペクトを表すかは動詞語基によって決まっている。ただし、例(13), (14), (15)のように、動作の結果が目に見えて観察可能であり、長めの時間をかけて行う動作を表す動詞語基は結果アスペクトを表す傾向が強いのではないかと考えられる。一方、例(11), (12)は、かなり短い間に終了する動作を表しており、未完了アスペクトを表している。

## 4.4. Activity verb: 継続アスペクトと習慣アスペクトおよび未完了アスペクト

ある長さの時間にわたって行われる動作を表し、その終結点が内包されていない Activity verb の UA- 形は継続アスペクトと習慣アスペクトあるいは未完了アスペクトを表すことがある。

まず、継続アスペクトについて述べる。Activity verb はすべて継続アスペクト形を持つので、UA- 形と継続アスペクト形の違いが分かりにくい場合もある。例えば、以下の (16) a, b は *alanna* ‘to swim’ の UA- 形と継続アスペクト形は両方とも「泳いでいる」状態を表す。調査協力者の Ipu 氏によると、UA- 形の方は「目的なく泳いでいる」感じが強く、継続アスペクト形は「目的をもって、何かの到達点に向かって泳いでいる」感じが強いという。つまり、継続アスペクトは「終結点に向かって行われる動作の継続」、UA- 形は「終結点を念頭におかない動作の継続」を表すということである。しかし、終結点を明示していない (16) a の文と、終結点を示した (16) b の文中において、UA- 形と継続アスペクト形を交換しても使用可能であるので、決定的な差とはいえない。

(16) a. *i-mari uʔaʔ-alanna su luaʔa*

Mary UA-swim LOC sea

‘Mary is swimming at the sea.’ (UA-form)

b. *i-mari tantaranna uʔaʔ-alanna inai su melongwane*

Mary presently PROG-swim go LOC Melongwane

‘Mary is swimming to Melongwane (central city of the Talaud islands).’ (progressive aspect)

次の例 (17) は、a の UA- 形の文については上記の Accomplishment verb の例 (15) のように、CONVEYED THEME が主語になることもある。例 (17) b と対照されたい。

(17) a. *βawalu udde ua-tummaʔa su lisunna*

mallet that UA-pound LOC mortar

‘A mallet is used to pound (something) in the mortar.’ (UA-form)

b. *i-tou ma-b-balu amme*

I-3sg MA-RED-crush rice

‘S/he is pounding rice.’ (progressive form)

例 (18) a は、a の UA- 形が継続アスペクト形とはかなり異なる意味を表す。UA- 形の *uʔaʔ-alabba* (*alabba* ‘to scratch’ の UA- 形) は「はためている」状態を表すのに対し、継続アスペクト形は「ひっかいている」動作の継続を表す。

- (18) a. *baneza udde uʔaʔ-alabba ta-t-tiup-ann u-ajinna*  
 flag that UA-flutter RED-blow-ANNA NU-wind  
 ‘That flag is fluttering blown by the wind.’
- b. *manuʔa udde tantaranna maŋ-ŋ-alabba letaʔa*  
 bird that now MAN-RED-scratch ground  
 ‘That bird is now scratching the ground.’

Activity verb の習慣アスペクトの例は (19) a であるが、実際には習慣アスペクトの例は少ない。習慣アスペクトは、習慣的に行う動作を表すものであるが、大体において職業を表すことになることが多い。

- (19) a. *i-maŋitou ua-manara su βailla*  
 I-3pl UA-work LOC field  
 ‘They are farmers.’ (UA-form)
- b. *i-maŋitou ma-m-manara su βailla*  
 I-3pl maN-RED-work (PROG) LOC field  
 ‘They are working in the field.’ (progressive form)

また Activity verb が未完了アスペクトを表すこともある。(20) a の *ua-ruai* (*ruai* ‘to cry’ の UA-形) は、「泣きそうな気持ちを味わっている」ということを表す。同じ動詞の継続アスペクトは (20) b に示したように、「泣いている」状態を表す。

- (20) a. *i-aʔu ua-ruai ma-dariŋikka battiʔa udde*  
 I-1sg UA-cry MA-hear news that  
 ‘I feel like crying hearing that news.’ (UA-form)
- b. *i-aʔu l-u-l-luai ma-dariŋikka battiʔa udde*  
 I-1sg RED-cry MA-hear news that  
 ‘I am crying hearing that news.’ (progressive aspect)

Activity verb の UA-形は動詞によって、継続アスペクト、習慣アスペクト、未完了アスペクトのいずれかを表す。

## 5. 結論

語彙的アスペクトごとに、UA-形をとったときのアスペクトをまとめると、以下の表2のようになる。atelic な Stative verb, Activity verb, telic な Accomplishment verb,

表 2：語彙的アスペクトと UA- 形のアスペクト

	未完了アスペクト	継続アスペクト	習慣アスペクト	結果アスペクト
Stative verb ATELIC	○	○	×	×
Activity verb ATELIC	○	○	○	×
Accomplishment verb TELIC	○	×	×	○
Achievement verb TELIC	○	×	×	×

Achievement verb の順にならべた。UA- 形のアスペクトが語彙的に決まっていることもあり、すべてを網羅的にまとめるのは難しいが、以下の点が指摘できる。

第一に、UA- 形は動詞の語彙的アスペクトの如何にかかわらず、未完了アスペクトを表しうる。UA- 形の基本的な用法が、未完了アスペクトなのではないかと考えることもできよう。

第二に、UA- 形が継続アスペクトを表すのは atelic な動詞に限るということである。telic な動詞の場合は、継続アスペクトを表すことができない。習慣アスペクトは atelic な Activity verb のみにみられる用法であるが、習慣アスペクトは「断続的に行われる継続した動作」を表すので、継続アスペクトの派生的な用法だとも考えられる。従って、習慣アスペクトは継続アスペクトの中に入れてしまうこともできる。習慣アスペクトを表すことができる動詞はほぼ職業的の行為を表すものに限られているので (*mam-manara* 'to work'、*ma-lutanga* 'to hunt' など)、特に独立したアスペクトと考える必要はないかもしれない。

第三に UA- 形が結果アスペクトを表すのは Accomplishment verb のときのみである。Accomplishment verb は、telic で終結点がはっきりしている。このような特徴を持つ Accomplishment verb のうち、動作が行われた後の結果が明白に観察できる動詞 (*sa?e* 'to board'、*suan* 'to plant' など) が結果アスペクトを表すのだと言える。

第四に、瞬間的な動作を表す Achievement verb については、未完了アスペクトしか表すことがない。

以上の用法をまとめると、UA- 形は未完了アスペクト、継続アスペクト（習慣アスペクトを含む）、結果アスペクトを表す。これらに共通するのは、発話場面で『動作』あるいは『状態の変化』が発話場面で明白に観察されない」ということである。継続アスペクトに関しても、終結点がはっきりせず、いつから始まったか（開始点）もはっきりしない動作の継続を表すため、「発話場面で変化は観察されない」。

結論として、UA- 形の原義は「発話場面での変化が明白に観察されない」という状態を表すのではないかと仮定できる。継続アスペクトはある動作が発話場面で行われているものの、目的も開始点・終結点もさだかではないので、変化が少ない。また未完了アスペクトと

結果アスペクトは、それぞれ動作が開始する前と終結した後の状態を表す。言い換えると、変化が起こる前と起った後の状態を示す。

現段階では、これ以上のことはわからない。今後の展望としては、語彙的アスペクトをさらに詳しく調べ、またテキスト中の UA- 形の用法を調べることによって、統一的な UA- 形の用法が説明できる可能性がある。

### 参考文献

- Bawole, G. (1981) *Struktur Bahasa Talaud*. Jakarta: Pusat Pembinaan dan Pengembangan Bahasa, Departmen Pendidikan dan Kebudayaan.
- Malee, J. N. (1995) *Sistem Morfologi Kata Kerja Bahasa Talaud*. Manado: Fakultas Pendidikan
- Noorduyn, J. 1991 'A Critical Survey of Studies on the Languages of Sulawesi.' Leiden: KITLV Press.
- Sneddon, J. N. (1984) *Proto-Sangiric and the Sangiric Languages*. Canberra: Pacific Linguistics Series B, No. 91.
- Sneddon, J. N. ed (1985) *Studies in Sulawesi Linguistics. part II. Linguistic Studies of Indonesia and Other Languages in Indonesia, NUSA* vol33. Jakarta: Badan Penyelenggara Seri Nusa.
- Tingginehe, R. R. (1967) *Perbandingan Semantik Bahasa Indonesia dengan Bahasa Talaud*. Thesis submitted to Institut Keguruan dan Ilmu Pendidikan, Bandung.
- 内海敦子 2011「タラウド語使用地域の言語使用と言語意識—インドネシア国、北スラウェシ州における民族語使用実態—」明星大学研究紀要—人文学部—日本文化学科. 第19号. pp217-234.
- Vendler, Zeno (1957). 'Verbs and Times'. *The Philosophical Review* 66 (2): 143-160.

### 省略記号

- 1sg: 一人称単数  
1pl: 一人称複数  
2sg: 二人称単数  
2pl: 二人称複数  
3sg: 三人称単数  
3pl: 三人称複数  
AV: Actor Voice  
COMP: 完了アスペクトを表す clitic  
CV: Conveyance Voice  
I-: 代名詞と単数の人を表す主語につく名詞マーカー  
FUT: 未来を表すマーカー  
GV: Goal Voice  
LK: linker

LOC: 場所・動作の対象を表す名詞につくマーカー

NI: 代名詞と単数の人を表す所有格の名詞、および Undergoer voice における行為者を表す名詞につくマーカー

PROG: 継続アスペクト

RED: 重複

REL: 関係代名詞。

#### 注

- 1) 本論文において使用したデータは2011年8月の調査に得られたものが大半である。この調査は東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所のプロジェクト「言語ダイナミクス科学研究 (LingDy)」における「研究未開発言語調査派遣」資金により行われた。この場を借りて関係者の方々にお礼を示したい。
- 2) タラウド話者によると、方言は以下の6種である。(1) Salibabu 方言 (Salibabu 島)、(2) Kabaruan 方言 (Kabaruan 島)、(3) Nyiampak 方言 (Kalakerang 島)、(4) Beo 方言 (Kalakerang 方言)、(5) Esang 方言 (Kalakerang 島)、(6) Nanusa 方言 (Nanusa 諸島)。このうち、(3)、(4)、(5) の三つの方言は Kalakerang 島で話されている。Nanusa 諸島のうち、有人の島は Miangas, Karatung, Kakorotan, Marampit である。
- 3) SIL の援助もあり、タラウド語に聖書が訳されている。Salibabu 方言は一番威信があると考えられており、この聖書で用いられる方言に採用された。
- 4) 「*maN/naN/-* の *N* は base の最初の子音の鼻音化、ないし同器の鼻音の挿入を示す。」
- 5) 接頭辞 *maN/naN/-* が付加すると鼻音の重子音となるので、比較的聞こえにくく、実際に重子音になっているのかははっきりしないこともある。